

# 将来の地域農業を考える「地域計画」を推進 【甲賀市農業委員会】

【農業委員会の体制】  
農業委員数 18名  
農地利用最適化推進委員数 45名



●甲賀市農業委員会の女性農業委員。(前列左から)奥村喜美子委員、今井百合委員、中本芳美委員、(後列左から)勝井麻有美委員、曾我秀美委員、山崎容子委員、奥村淳子委員、◎農業委員・推進委員は地域の農業者と話し合いを進めた

## 地域計画策定へ女性委員も奮闘

### 滋賀 甲賀市農業委員会



甲賀市は、琵琶湖の南平地と中山間地域が混在し、水稲や麦、大豆、野菜、茶などの生産が盛んな地域だ。  
同市では24年、地域計画作りを始めた。目標地図は、市農業振興課が作成主体となり農業組合長などの集落役員への周知

### 将来の農地活用で話し合い

### 認定農業者の意向なども確認

2025年8月末に向け、全国で作られてきた地域計画。各市町村農業委員会は、目標地図案作成に向け、各地域に入り難しい役割を担ってきた。甲賀市農業委員会(寺田勝典会長)も多くの委員が活躍し、女性委員も奮闘した。

甲賀市は、琵琶湖の南平地に位置している。農業は耕地面積約4800ha、

市農業委員会は、同課と役割を分担し、農業委員と農地利用最適化推進委員が担当区域で、集落役員とも協力、農地の状況と今後の可能性、特に不耕作農地のソーニングを実施した。集落の担い手の状況や、高齢の認定農業者の意向情報を確認するなど、地域農業の在り方も見つめなおした。

### 目標地図の作成へ 地域で対話や助言 検証と反映は継続

同市は、全国でも女性農業委員の登用率が高く、農業委員数18人のうち7人と約4割が女性。各女性委員も担当区域で積極的に活動してきた。

同市の大野区域を担当する奥村喜美子農業委員もその一人だ。同委員は地元をはじめ、担当区域



甲賀市地域計画(10年後の図面)

同委員はまた、「複数の担い手がいる集落では、離農者が増えると、条件不利地は休耕になることが心配。本当に10年先を担ってくれる農業者のために、今後も作付け状況の検証と目標地図への反映を続けていかなければ」と気を引き締めた。  
同市農業委員会は、「今後も地域計画や目標地図をより良いものにするために、農地の利用関係の調整を実施し、地域のあるべき姿に近づけていく取り組みを行っていく」と将来を見据える。